

「富士山麓から世界へ ～ファルマバレーは、いま!～」

〒411-8777 静岡県駿東郡長泉町下長窪1007 TEL055-980-6333 FAX055-980-6320
県立静岡がんセンター研究所1階

■発行■
2010年12月
vol.15
ファルマバレーセンター
E-Mail mail@fuji-pvc.jp
URL www.fuji-pvc.jp

ファルマバレーが『nature』に掲載! 世界に向けて躍進します!



■4日間でファルマバレーのさまざまな分野取材した。上:ファルマバレーセンター井上所長より、プロジェクトの取組を聞くブレット氏。右:上から、静岡がんセンター研究所、船原館、東海部品工業での取材の様子



■12月2日号の表紙

ファルマバレープロジェクトは世界的な総合科学誌『nature』の取材を受け、12月2日号に、冒頭2ページの取材記事を含む、全10ページにわたって特集記事が掲載された。『nature』は1869年に創刊されたイギリスの総合科学誌で、全世界で約5万3千部(日本国内で5千部)、読者数は全世界で43万人(同誌調べ)の規模を誇る。

○記事URL <http://www.nature.com/naturejobs/2010/101202/full/nj0323.html>

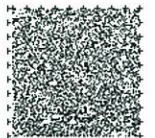
9月下旬から10月初旬にかけ、同誌のブレット・デイビス記者が来静し、4日間での取材を行った。静岡がんセンターの山口建総長から同プロジェクトの説明を受けたほか、同研究所で行われている大学・企業との共同研究を調査。ファルマバレーセンターでは地元企業と医療現場のシーズニーズを結びつけるビジネスマッチングについて聞いた。さらに伊豆市のファルマバレープロジェクト参画企業や「かかりつけ湯」施設も訪問、先端的医薬品開発からウエルネス産業にわたる幅広い分野取材した。

10月4日には、同誌の藤原由紀マネージャーが県庁で川勝平太知事をインタビュー。川勝知事は、プロジェクトから

生まれた成果として、口腔ケアセットなどの研究開発成果を紹介したほか、“富士山”と本県の豊富な自然が生み出す農芸品について熱弁をふるった。

取材を終えたブレット氏は「静岡県・ファルマバレーは富士山の自然あふれる大変素晴らしい地域。“和の心”を基本とし、患者本位の医療をベースとしたクラスターを展開していることがとても印象に残った」と振り返った。

現在、同プロジェクトの第3次戦略計画の検討が本県経済産業部を中心に進んでいる。同プロジェクトにとって、『nature』への掲載は世界に向けて躍進する大きなきっかけとなるはずだ。





■東部には高品質な医療関連製品が多い

ファルマ参入で企業収益アップを

世界的な総合科学誌『nature』での特集を機に、ファルマバレープロジェクトは世界展開を加速する。その先頭をいくのが、ファルマから生まれた成果品を国内外に売り込む取組だ。これにより医療健康産業クラスターの形成に弾みをつける。

1円でも多く売り上げるための支援

ファルマバレープロジェクトが始まって10年。医療健康産業のクラスター形成を目標に、1次戦略、2次戦略を通じ、医療現場のニーズと地元ものづくり企業のシーズをマッチングさせる取組に力を入れてきた。医用機器開発エンジニアの養成や、経営者・管理者向けの技術経営講座の開設、医療機器第三者認証機関「フジファルマ」の設立など、地元企業が医療健康産業に参入しやすい環境が整備されている。



■「売り上げアップがクラスター形成を加速させる」と話す山口総長

すでに30件を超える成果品や80件近い特許出願数など、目に見える実績が上がっているが、個々の企業が独自の販売ルートを開拓するのは難しく、売

り上げ増に結びつかないのが現状だ。

ファルマバレーを牽引する静岡がんセンターの山口建総長は「“婚活”が結婚に結びつくには、結婚したいという強い意志が必要。同様に、医療に参入したいという強い思いをこの地域の企業に持ってほしい」と語る。

次年度から始まる第3次戦略計画では「この地で医療健康産業をやっていると売り上げが伸びる」状況をつくり、医療に参入する企業を増やすための販売支援に力を入れる。ファルマバレーから生まれた製品はもちろん、参画企業の関連製品も対象だ。そうすることで、この地域の医療健康産業のクラスター化を図る。

医療系目利きが売り込み指南

販売力強化の方法として、ファルマバレーセンターはこの夏、国内外に強い販売ルートがあり、製品の“目利き”もできるコーディネータ兼アドバイザーチームを結成。高砂香料工業OBの白井文晴科学技術コーディネータを中心に、野村総研や中外製薬のア



■国内外にさまざまなコネクションを持つ専門家(左から中外製薬アメリカ法人OBの佐藤統夫氏、野村総研OBの仲吉洋氏、ファルマバレーセンターの白井コーディネータ)

メリカ現地法人、化学分析機の世界最大手アジレント・テクノロジー社のOBなど、4人の精鋭をそろえた。

4人は中小企業が作る医療機器や部品、技術力を調査し、国内外の大手企業に売り込む。また、日本の薬事法や、FDA認証やCEマークといった海外の認証などについても情報収集やアドバイスをを行う。

ファルマバレーセンターは製品紹介サイトも立ち上げた。メインは、タウンズのインフルエンザ診断薬、ホリックスの骨腫瘍検査キット、東海部品工業のQQセーバーなど、ファルマバレーの取り組みから生まれた医療機器関連製品。このほかの医療機器や部品、原料なども掲載する。

現在、紹介サイトに掲載する製品を広く募集している。東部を中心に中小医療系企業製品の調査もしており、200社ほどの製品を掲載することが目標だ。

東部に医療用部品の国際見本市を

ファルマバレー第3次戦略計画の期間は10年。その間に、売り込み支援の対象を東部のみならず全国の中小医療機器メーカーに広げ、「国内外の大手医療機器メーカーが部品や部材を探すときに必ず立ち寄るサイトにしたい」と山口総長は語る。キラメッセぬまづで医療用部品の国際見本市開催も視野に入れる。



■ファルマバレーに参画する企業の展示ブースが並ぶ見本市を!(写真は国際モダンホスピタルショー2010)

県東部にもものづくりから販売まで、医療機器分野のトータルサービスが受けられる環境が整いつつある。ファルマバレー参画企業の売り上げを伸

ばすことで、医療健康関連クラスターの成長にはずみがつくことが期待されている。

ホームページで会社の製品を国内外にPRしませんか



URL <http://mtfuj-channel.fuji-pvc.jp>

ファルマバレーセンターは、地元企業の医療機器、部品などの販売を無料でお手伝いいたします。

大手医療機器メーカーOBなどの専門家が、貴社製品や技術を“目利き”。大企業の調達部門や世界に向けた販売ネットワークで紹介します。

また、静岡がんセンターをはじめとする、ファルマバレーが誇る医療ネットワークをフル活用。国内の医療業界のみならず、欧米や台頭著しい中国の医療業界にも太いパイプを持ったコーディネータ兼アドバイザーをそろえました。ただいま、ホームページで紹介する医療機器、部品を募集しています。

詳しくは・・・

ファルマバレーセンター

〒411-8777 静岡県駿東郡長泉町下長窪1007 静岡がんセンター研究所1F
TEL055-980-6333 fax055-980-6320 E-mail mail@fuji-pvc.jp

※掲載は無料です。ただし、専門家による技術評価を受けていただきます。



文部科学省大型助成事業にファルマバレーが採択!

今年6月、文部科学省補助事業「地域イノベーションクラスタープログラム(重点支援枠)」にファルマバレープロジェクトが採択された。これは、同プロジェクトにおける研究開発をより一層推進するため、静岡がんセンターの山口建総長を事業本部長に、県と東部地域の12市町が共同で提

案したもの。

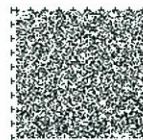
同プロジェクトは、平成16年度から文部科学省の都市エリア事業(一般型・発展型)を活用し、地元企業によるニッチ製品の完成、地元企業の医療機器製造業への参入による地域産業の活性化や大企業との共同研究開発など、多くの成果を上げてきた。医療機関中心型としては国内で唯一の成功例と言えるクラスター形成の取組及び今後の研究計画が高い評価を受けている。

今回採択された計画では、これまでの研究成果のうち、特に完成間近で海外展開が見込まれる腫瘍マーカーや自己抗体など先端的ながん診療技術4テーマに集中して研究開発を行い、製品化・事業化を進める。

今後、ファルマバレーセンターを中核機関に、地域が一体で本事業を実施することで、同プロジェクトをより一層加速し、地域が自立して持続的に発展できる、世界に向けた医療健康産業クラスターの形成を目指していく。



■地域イノベーションでは先端的ながん診療技術の研究を進める



医療分野への参入にはずみー地域向けビジネスマッチング事業

ファルマバレーセンターは、医療機器製造分野への進出を考える地域企業の技術シーズと、医療現場のニーズや医療機器メーカーの求める技術などとのマッチングを促進し、健康医療関連産業の裾野の拡大を目指している。本年度は以下の2事業を開催。

① 医療現場のニーズとのマッチング

産業化コーディネータによるコーディネート活動等を通じ、医師・看護師が必要とする医療機器開発テーマと、地域企業の技術シーズとのマッチングを促進。

② 医療機器メーカーのニーズとのマッチング

地域企業が医療機器メーカー等への部品・部材の供給などを通じて、既存技術の高度化・提案力の向上を図り、医療機器メーカーには調達多様化・外部委託化を図ってもらうため、医療機器メーカー

のニーズと地域企業の技術シーズのマッチングを促進。

さらに、県東部12市町から推薦された企業を産業化コーディネータが訪問・調査するのをはじめ、企業向けセミナーを市町と共同で開催。マッチングのための下地づくりを進めている。企業訪問を担当するファルマバレーセンターの大竹

輝徳産業化コーディネータは「医療機器分野への参入は、自動車産業や家電業界で揉まれた中小ものづくり企業の技術力をもってすれば、何も難しいことはない。市町と行っている薬事セミナーなども活用して、積極的に参入してほしい」と呼びかけている。



■市町と共同で開催する企業向けセミナー



■「東部の高いものづくり技術を医療分野に生かしたい」と語る大竹コーディネータ

Close up

ユニフォームから医療へー山本被服の挑戦

清水町のユニフォームメーカー山本被服は、看護師のベッドサイドニーズをもとに、自社の得意技術を活かした「ミトン付き着衣」の開発を進めている。

手術後のせん妄(意識の混濁)に加えて妄想や錯覚などが見られる状態などでチューブ類を抜き取ってしまう恐れのある患者は、手指の動きを制限する抜管防止ミトンを着用することが多い。しかし、患者によってはミトンを簡単に外したり、ミトンを装着した状態でチューブ類を抜いてしまったりすることが問題だった。

長と杉山絵美看護師がアイデアを出し、「ミトン部分の工夫で物が掴めない」「ミトンと服が一体型なので、ミトンが外れない」などを工夫した「ミトン付き



■ミトン付き着衣(左)と、国際モダンホスピタルショーでの発表(写真左から山本課長、杉山看護師、種市看護師長)

こうした悩みを解決するため、国際医療福祉大学熱海病院看護部の種市敏子看護師

着衣」を試作した。

試作品は、東京ビッグサイト(東京都江東区)で行われた国内最大級の病院関連の展示会「国際モダンホスピ

タルショー2010(7月14~16日)の展示ブースやセミナーで披露され、全国の看護師から「早く実用化してほしい」「すぐに使用したい」などの声が多く寄せられた。

